

とことこ通信



山陽小野田こども発達支援センター「とことこ」2020年7月発行

梅雨末期の大雨に備えて



梅雨明けが待たれる7月を迎えました。

6月中にも何日か雨量が増え、桜川の水位が上がるがありました。

思えば・・・今年の8月29日早朝、前日からの大雨のため桜川が増水し、とことこ周辺の道路が冠水のため通行止めとなり、臨時休業となりました。登園前の時間帯ですぐに利用者のご家庭に、臨時休業の連絡をして、とことこの施設自体への冠水はなく、職員も無事出勤し周囲の点検等を実施し、天候が落ち着いた午後から、定例の理事会を開催したことが思い出されます。

事前に子どもたちが利用している時に大雨警報が発令され、冠水の恐れがある状況を想定しての、防災訓練を実施していましたが、営業時間前の状況については、マニュアルにはありますが、いざ！というときの危機管理についての大切さを実感し、貴重な機会であったと思います。

6月中旬に、桜公園にあるスピーカーから地震に係る訓練放送が流れていました。

全職員にも周知し危機管理についての意識を高めて、防災、防火避難訓練を実施し、有事に備えていきたいと思います。



文責：yoshimizu

－ 集団療育での新聞遊びをとおして子ども達が体験できること －

作業療法士より

大きな新聞紙を指でつまみ、ちぎる…このちぎる動作には、親指、人差し指、中指の腹をぎゅっと合わせることで、中指、小指をぎゅっと固くし手を固定すること、全ての指の動きが必要になります。

思い切りバリッと破るときには、腹筋、肩の固定力など、全身のバランス能力が必要になります。また、ちぎった新聞紙を両手に持ち、ぱさーっと投げて降ってくるのを見る時には、目の機能が沢山使われますし、ちぎった新聞紙に埋まって感覚を楽しみ、お互いに埋めあうことでコミュニケーションも促されます。

綱引きの様にお互いに引っ張り合えば、踏ん張るちからを育てたり、感情が高ぶりやすい子にはコントロールするちからを促すことにもつながります。新聞紙をギュッギュッと丸める際に、肩から肘、指先のちからがしっかりと養われます。

遊びの中には、子どもたちがグングンと伸びる要素がたくさん詰まっています！とことこでも、遊びを通して様々な経験ができるように日々の生活やプログラムを考えていければと思います。

